

辨天子僧とかの様な)の様なものを聞かせるなども最も宜しくないと信じます。

猫が物語つたとか、狐が話をしたとか、即動物や無生物が人間の様に顯はされて、其中に道徳上の訓誡を寄せて居る寓言とか、其他之に似た童話とかを聞かせるのは宜しくないとかあるとかの議論もある様です。之等のことや、尙右に擧げた有害だといふ話については、次にお話をすることにして、こゝでは大体子供の話といふものは、教育上これ程の効能があるから決して忽にしてはならぬといふことに留めます。

日常の作法

雨 森 釧

作法といふ事は世間一般に注意致すやうになり

まして、小學校より高等の學校に至るまで女子の學校であれば、恐らくは此科の設のない處はないであらうと思ひます。併其學校にて教しへられた作法か實際實用になりて居りますのは何程位ありませうか。

今諸種の學校にて教しへられて居ります作法は座作進退より品物の進撤配膳まで一通の者につきての扱ひ方で御座います、是等一通の事は貧富貴賤の別なく心得て居らなければなりません、夫故今日の處では何處でも注意して練習を致しますから、大概教はりた丈はちやんと出来ますが、日常手近き周囲の作法には疎い人が多いではないかと思ひます。

作法といへは着物を着替へ、足袋などもはき直しまして整頓した部屋でなければ出来ないかの様

に考へて居る人もある様で御座いますが、此處で申します日常の作法は、左様に究屈な者では御座いません、即すべての物の物を鄭重に扱ふといふ事に常に自分の身の周圍に接近して居る極手近な所のものに對する取扱方を申すので御座います。今例を擧げて申しますと戸障子の開閉で御座いますが、是には座禮立禮共に作法があります事で御座いますから、委しい事は申しませんが、此戸障子の開閉について少しく氣をつけなければならぬ事があると思ひます。戸障子襖は凡て靜かに開閉しなければなりません、即荒々しく大きな音の致しません様にするといふ事で御座います、殊に開き戸は荒くなり勝て御座いますから氣をつけて出来る丈靜かにしなければなりません、長き廊下などの雨戸或は窓其他の硝子戸等も可成靜かにし

なければなりません。開閉が亂暴で御座いますと戸障子が早く損じまして不經濟なばかりでなく、如何にも其人が亂暴に見えます、殊に病人などあります時には病氣に障りますから一層氣をつけなければなりません。

又戸障子は開放をしないやうにしなければなりません、元來戸障子は必要ありて設けた者で、必要がありて開閉をしますので御座いますから閉ざしたる戸障子は出入の後必ず閉ざして、おかなければなりません。今直ぐに入るからと思ふても必ずわとは閉ざして置かなければなりません、又全く閉ぢた積でしめ残をする事も御座います、是も亦見悪きもので寒き折などには誠に困ります、諺にも馬鹿の開放とか申しまして、昔より開放を致す人は馬鹿であると申しまして、開放はしないもの

といふ事を教しへた者で御座います。是等の事は六ヶ敷事でもなく、少し氣をつけさへすれば出来る事で御座いますから、子供の時からよき習慣をつくるやうにしなければならぬと思ひます。

子供は依頼心の強きものか、又一般に大人の干渉の過ぎますのか、子供相當に出来ませす事でも人に頼むといふ傾があるやうに思ひます。よし子供に依頼心あるにしても、大人の方で容易い事から子供を活かせて参りますと子供は造作もない事にまで出来ません出来ません爲て頂戴と申す様な悪しき習慣はつかない事と思ひます。大人が何も角も手を下して世話を致しますは、親切な様で却て親切では御座いませぬ。戸の開閉に致しましても子供一人にて開閉が出来ませす様になりましても尙大人でなければあかないものと思つて開けて頂戴

と申します。すると直に開けてやりませすあけて貰へるもので御座いますから其あとの仕末などは少しも知らないといふ事がだん／＼習慣となり、一人で戸障子のあけたてが出来たる様になりまして、あとの仕末を致す事をしらないで開放をしても、閉残をしても左程不作法とも思はないのであらうと思ひます。それゆゑ子供の時から戸障子の開閉は静かにすべき事又開放としてはよくないといふ事などを教しへて置き度と思ひます。

開放の僻がつき升と、兩戸でも戸柵押入などの戸でも開放してうつかりとして居る様になりませぬ、若兩戸の開放を致しますか、盜賊の患を免れません。戸柵押入などの開放を致しましたならば鼠の害を受くる事がありまして、是等の不注意より起る害は少なくありません。